

Alinity ci シリーズの導入効果～試薬廃棄ロス削減～

◎小野 早織¹⁾、東 正浩¹⁾、川端 直樹¹⁾
市立敦賀病院¹⁾

【はじめに】

Alinity ci シリーズはアボットジャパン社の生化学・免疫統合測定装置である。当院では装置更新を機に、Alinity c2i を 2021 年 1 月に導入した。導入目的の 1 つである試薬廃棄ロス削減について、得られた効果を報告する。

【導入目的】

装置特長である試薬架設の簡明さと免疫検査試薬の安定性を選定理由に挙げる。試薬架設は測定検体投入と同じ手順で測定稼働中も随時可能で、管理担当者でなくとも簡単に行うことができる。免疫検査試薬は開封後も専用試薬交換用キャップを用いた再封冷蔵により安定であるため、装置へ架設後の安定性期限カウントが架設中のみ行われる。これらを活かした運用「時間外は依頼数の少ない検査試薬を装置外に保管・依頼受託時に架設して測定」とすることで、検査依頼制限を行うことなく、安定性期限切れによる試薬廃棄を減らすことが期待できる。

【方法】

①試薬安定性の確認：Anti-HBs、CA125、PCT、Insulin、C-

peptide、 β HCG の検査試薬について、専用試薬交換用キャップを用いて再封冷蔵保管しながら開封後 60 日間の日差再現性を確認する。②運用実施：①の試薬について、時間外は専用試薬交換用キャップを用いて装置外にて冷蔵保管し、開封後 60 日まで使用継続する。装置外保管中に検査依頼を受託した場合、当直技師が試薬を装置へ架設して測定する。

【結果】

①日差再現性 CV の各項目平均は 4.4%であった。
②運用開始前と比して、廃棄試薬 80%減、金額にして年間約 1700000 円のコストカットが実現した。当直技師が行う時間外の試薬架設に関して問題は発生していない。

【まとめ】

Alinity c2i を導入したことで、当院では検査の質維持と試薬廃棄ロス削減の両立が可能となった。目指す運用と合致する特長の装置を選択することで、確かな効果を得ることができる。

連絡先 市立敦賀病院検査室 (0770)22-3611